

平成30年度  
第5回堺市堺区区民評議会  
会議録

行政資料番号 1-C8-18-0141

平成30年 第5回堺市堺区区民評議会 議事録

開催日時	平成30年10月25日（木） 午後6時30分から午後8時
開催場所	堺市役所 本館3階 堺区役所会議室
出席委員	岡田会長、川上副会長、奥野委員、貴志委員、北野委員、隈元委員 小池委員、松壽委員、間宮委員、矢本委員、湯川委員
事務局職員	堺区役所 西本区長・泉森副区長・福田保健福祉総合センター所長 (企画総務課) 大黒課長・山口参事役・藪課長補佐・大仲主幹兼係長 岩野主査・川瀬主査
傍聴者 (一般)	2名
議 題	1 開会 2 議事 答申に向けた審議のまとめ 3 閉会
資 料	資料1 平成30年度堺区区民評議会 振り返り 資料2 基本的な考え方・方向性による審議のまとめ 資料3 堺区区民評議会 平成29・30年度 答申アウトライン案 参 考 平成30年度堺区区民評議会の審議経過報告について

議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
岡田会長	<p><b>1. 第5回堺市堺区区民評議会 開会</b></p> <p><b>2. 議事</b> 答申に向けた審議のまとめ</p> <p>これまで3回にわたって、3つの方向性である「地域力の強化」、「働きやすい環境の整備」、「郷土愛の醸成」について審議をいただいたところでございます。</p> <p>本日は、答申作成に向けて審議を行いますが、3つの方向性を実現する具体的な取り組みについて、中間報告で示されました「好循環をつくり出し、多様な効果につなげる」「課題を地域の有効な資源に転換していく」「『堺区らしさ』を創出する」、資料で言いますと、資料2の下段A、B、Cというところで今、お話ししたことが掲載されていますが、この3つの基本的な考え方を踏まえて、本日は事業案、アイデアなどについてご意見をいただけたらと思います。既に事務局から、民間主体の取り組みについてお考え、アイデアという投げかけがあったかと思うので、そちらについてご意見をいただきます。</p> <p>まずは、審議に入る前に、これまでの振り返りを事務局からお願いいたします。</p>
事務局 (川瀬主査)	<p>事務局より、資料1の説明。</p>
岡田会長	<p>参考として資料につけていただいている「平成30年度堺区区民評議会の審議経過報告」については、現時点での審議状況として区長より市長に報告をいただくことになっております。</p> <p>それでは、早速、本日の審議に入らせていただきたいと思います。</p> <p>先ほど申し上げました3つの方向性を実現する具体的な取り組みについて、中間報告で整理された3つの基本的な考え方も踏まえて、本日は事業案、アイデアなどについてご意見をいただきたいと思います、そして、最終答申につなげていきたいと考えております。</p> <p>それでは、資料を事務局に整理していただいておりますので、説明をいただければと思います。</p>

<p>事務局 (川瀬主査)</p>	<p>事務局より、資料2の説明。</p>
<p>岡田会長</p>	<p>それでは、事業案やアイデアについて、ご意見を賜りたいと思います。これらの事業を実現するための推進体制、先ほどから繰り返し説明いただいておりますけれども、行政がこれまでのようにお金も人も全て出してということではなくて、ここでも何回か議論に出ました、そこは役割分担をしながら民間主導で進めていくということの大事さと、本当の推進力というのはそこにあるのではないかと、他の地域の事例からも読み取れたのではないかと考えています。</p> <p>資料2をご覧くださいながらでも、キーワードの言葉を拾いながらでも結構ですし、担い手というところというと、例示もありますので、自由にご意見をいただけたらと考えています。</p>
<p>隈元委員</p>	<p>前も議員の先生方とお話をしたときに、僕は大道筋が大好きだというお話をさせていただきました。「働きやすい環境を整備し、起業しやすいまちをめざす」というところにこれが当たるかと思います。今、堺区に空き家、空き店舗が結構ある中で、それをどのように活性化させていくかというところが大きな課題です。そういうところに若者たちが集い、店舗を動かしていくということが、今回も「まちのデザインC a f e」を実施していますが、そういうものを一度だけでなく繰り返しやっていって、面ですっと広がっていくやり方ができるとベストかと思っています。</p> <p>今、私の堺まちづくり会社と矢本委員のところ、11月から堺東の空き店舗を使ってという話もあります。何かきっかけ、ひとつずつ成功事例を作っていって、できればそういうお店がどんどん大道筋のところにできてくる、大きな目標に向けてひとつずつやっていくというやり方をしていけないといけないのかとは思っています。しかし、いかにせん担い手、実施主体といったところが非常に、問題がありまして、費用をどこがどう持つのか、担い手のどこが主体となって動かしていくかといったところで、急に民でやっというようになりますと、なかなか、考えはあるのだけれども行動に移せない。民でといったところに入ってきた途端に考えが詰まってしまうという感じを持ちました。</p>
<p>岡田会長</p>	<p>視察で伺った北浜テラスでも民間主導でいろいろとなさっています。間宮委員、今のお話の中で、民間がいろいろやっていく中で費用</p>

	<p>の面であるとか、継続していくことの難しさというところで、ご意見や、そこを乗り越えるようなアイデアなど。ここでの成功事例について、これまでもお話を伺っているかもしれませんが、改めてお知恵があればお話をいただけたらと思うのですが。</p> <p>前々回もお話ししたと思うのですがけれども、結局、大阪のこの北浜の川辺というひとつの環境を、もちろん府の持ちものの河川敷なのですけれども、そこを民間で活用していくというのは、経済的に回っていかないと、これはなかなかできないです。そういったところはいっぱいあると思うのです。特に堺区なんかはたくさんあるのですがけれども、それを行政の指導で行政がやると、なかなかできない。でも民間でもできない。そこをうまく組み合わせることができたらいいのかと思って、そのひとつの例として、北浜テラスをご紹介しました。</p> <p>その場を活用する人たちが自主的に、自分たちでこういうふうにしようと。この北浜テラスも大阪府に占用地代を払っているのです。それによってたくさん人が来てまちが潤っていくわけです。こういう評議会の場所というのは、やっぱり一番そこがポイントだと思うのです。いかに民間で行政のものを活性化していくのか。それが全て、いろいろなものにつながっていくので。</p> <p>先ほどおっしゃっていた大道筋や、堺東の空きスペースとかは、特に大道筋なんかは本当にそういった堺区を代表する環境資源なので、そこをどういうふうにしていくかということをもっともっと詰めていければ、いろいろなところでいけると思います。ただ、みんなでやっても、なかなかスタートはできないので。やっぱりそこにお店を出していたり、住んでいたり、会社があるところが連携して自分たちの場所を自分たちで活性化していこうと。そこに役所も企業もついていってもらえるような、きっかけが欲しいです。そういうものが、やっぱり本当はこういう評議会の一番の役目なのかと思います。</p>
<p>間宮委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>民間でと最初に申しあげましたけれども、なかなか課題点というか、問題点があるということをお二人の委員から、ご経験の中からお話しいただきました。</p>
<p>岡田会長</p>	<p>私自身、堺市に住んで、自治会には入っているのですがけれどもなかなか、お手伝いはするけれども、自分で旗振り役になって何かをやる</p>

	<p>のは正直、あまりやりたくないというか、後ろ向きの面もあります。もちろん堺に愛着がありますから、力になれることはやりたいとは思いつつ、なかなか、例えば会社を興すにしても、お店を出すにしても、自分が堺でやるのは有利だとはあまり思えないというのがあります。多分、僕みたいな30代の平均的な感覚なのかと思ったりするのです。</p> <p>だから、僕ができることというのは、こういう会議もそうですけれども、結構、僕の子どもとその友だちにはいろいろ教えてあげたり、大仙公園の周りを案内して回ったりとか、虫とりに連れていったりとかしているのですけれども、そういうことの積み重ねでいくしかないのかと思っていますところ。</p> <p>この評議会の追い求めている、コミュニティの力を強くして働きやすくなって、郷土愛があるまちというのは高過ぎる目標に思えてならないというのが正直なところ。</p>
岡田会長	<p>今、最後にお話しいただいたところなのですが、最終目的地というか、到達点で今おっしゃっていただいたように、積み重ねなのだろうと。どこかの資料にも載っていましたが、一足飛びでこういうことが実現するとか、そういうことはないかと思うので。</p> <p>先ほどお話しいただいた虫とりを、子どもたちが地域の中に出て、いろいろ関わっていく中で、経験を踏まえて郷土愛が醸成されたりという積み重ねがこういうことに、最終到達点としてはあるのかもしれませんが、例えば組織的というか、事業として考えたときに、今、先ほどのお話だったらどうということが考えられますか。</p>
奥野委員	事業ですか。
岡田会長	事業なのか、プログラムなのか。
奥野委員	<p>僕は家で仕事をしていますから思うのですけれども、堺に住んでいる人は、やはり大阪市内へ通勤している人が多いですから、あまり堺のことを知らない人が相当数いらっしゃると思います。同世代の付き合いでも、西の高野街道がとか言っても、そんな道は知らんという人もいますし。あまり自分の住んでいるまちのことを知らない人が、意外と多いのではないかと思います。</p> <p>だから、散走という堺市がやっている自転車のイベントがありますが、堺は大きいので、自転車なりバスなりで走って、堺を実感</p>

<p>岡田会長</p>	<p>できるような取り組みがあればいいのではないかと思います。</p>
<p>奥野委員</p>	<p>知らないというところで、前回会議で川上副会長からも、まずは知るところからというお話をいただいたかと思うのですが、その知るところにつなげていくためのアイデアみたいなものは、ふだんそういうものを書かれているというところでいうと、何かございますか。</p> <p>僕は、堺に住み出して多くの堺に関連する本を読んだりもしたので、そのときに中央図書館で郷土史のコーナーに結構助けられました。ああいうコーナーって、少しマニアックなというか、調べものをする人のためのものにとどまっているのがもったいないです。大仙公園は仁徳陵の前というとてもいい立地ですし、博物館があって、自転車博物館もある。その中であって図書館は古い感じで、あくまで昔ながらの調べものをする館といった佇まいです。もっとPRというか、堺ってどんなまちなのと調べに来た人が手にとれるように、やわらかめの本を多めに揃えるだとか、そういうところで発信基地みたいになれば、すてきだと思いました。</p> <p>実際に沖縄などへ行くと、図書館がそういう観光ガイド的な役割をしているのです。地方の観光に力を入れているところでは、そういった取組が増えてきていると思います。その辺が堺は旧時代的なやり方をしていると思います。</p>
<p>岡田会長</p>	<p>図書館に行かせるためには、どうしたらいいのですか。</p> <p>図書館にそういう資源、いろいろな資料を置くということが、沖縄であったり、今のお話のところにあるのかと思うのですがけれども、なかなか図書館にたどり着かないというのはあるんじゃないかと。</p>
<p>奥野委員</p>	<p>図書館の場所の問題もありますよね。だから、堺の場合は堺東があり、旧環濠があり、また、JRの堺市駅というのがあって大きなまちという。さらに泉北があり、分散してしまっていてなかなかつかめない、取っかかりがないというのがネックです。</p> <p>大阪では、やはり大阪市と対比して考える必要があると思うのですがけれども、大阪市の場合は大阪城があり、四天王寺がありと、そのあたりがすぐさま思いつくのですが、堺ってどうだろうかと。古墳があります、千利休ゆかりの地ですと、いろいろあるけれども、それが有機的につながらないというのは感覚として持っているのです。そのた</p>

<p>貴志委員</p>	<p>めにつくられたのが利晶の杜だと思いますけれども、まだまだ堺の文化みたいなものに触れている感じが無いのが、厳しいところだと感じています。</p> <p>私は、自治会の活動をしていたのですが、いきなり大きなことはできないけれども、モデル事業にあった浅香山GENKIプロジェクトや、まちのデザインCafeとか、どちらかといえばわざわざ遠くから人を呼ぶというよりは、知っている人がロコミで来たみたいなところが、まずひとつあるのかなと。それからいけば、私も地域でやっている中で、夏祭りって結構まだ残っている地域なのです。一番いいのは、だんじりなんかがあると、これから秋祭りがあちこちであるのですけれども、そんなのを主体に集まって来られるという面がやっぱりあるので。</p> <p>もし、そういうものがあれば、今、多分そういうところも青年団が弱くなってきているとか、いろいろな問題があるのかとは思いますが、私が勤めている会社にも、百舌鳥のふとん太鼓の地域の方がいらっしゃって、もう50を超えた方なのですけれども、「俺、今日は担ぎに行くから、早よ帰るわ」ということで、次の日には「湿布ないか」というぐらい頑張っている。やっぱりそれは、そこにずっと住んでいらした方なので、周りに誇示するだとか、人に来てもらうとか、もうけるとかがなくても、やっぱり地域に愛情を持つということがあるのではないかなと。</p> <p>うちの辺りでも祭りなんかをすると、少子化と言われるけれども、こんなに子どもがどこから出てきたのかと思うぐらい集まってきたりしますし、何かイベントをするごとにその地域、プラスその地域のもう少し外側の人たちがやってくるということもあります。もうかるわけでもないし、やっている人がしんどい思いをするのですけれども、楽しい思い出にもなって、それはやっぱり地域としても否が応でも顔を突き合わせますから、そのあたりがいいのかと。まず、そこから始めるところが地域としてはひとつかなと。</p> <p>奥野さんがおっしゃったみたいに、旗振り役をする人だとか、旗は振らなくても旗の近くに集まってくれる人がなかなかいない。この資料にあるところの、若い世代を担い手に育成すると。それがなかなか難しいというところがあるので、そこがクリアできれば小さい地域のイベントなんかは、かなりできるのではないかと考えています。</p> <p>今日、ここにパンフレットが来ているのですけれども、このふれあ</p>
-------------	--

	<p>いまつり、これも実は一応、地域の連合自治会からつくっているところが主体となってやっているというところなのですけれども、そこだけではなかなか継襲できないので、役所の方にもいろいろ力をいただきまして、中でいろいろなことを行政的にも、部会もしてもらおうとか、いろいろ大変なことがある、その辺もやってもらおうということのおかげでこれだけの祭りをする。そうすると、かなりの人が集まるということで、人が集まる要素というのは、まだまだあるのだろうと。</p> <p>ひとつ思っているのは、やっぱり誰がするのだと、誰が旗を振るのだと、そこがクリアできるように支援ができれば、かなり楽しいまちになるのではないかということ、いつも感じております。</p> <p>ものすごくいいヒントをいただいたのかと思うのですが、我々の研究の中でコミュニティ、地域をつくるというときに、強いつながり、コアをつくる部分と、外側の弱いつながりをつくる部分と、2つに分けて考えるのです。今のお話というのは、多分、中のコアの強いつながりをつくるところで、そこに利益であるとかではなくて、人が顔見知りというか、もともと住んでいる地域ですから顔見知りなのでしょうけれども、そのつながりを強化していくということが一番の優先順位に置いて、お祭りなど人が集まれるイベントをすることで地域の強化というのは成り立つのだろうとは思いますが。それプラス、外側というか、外から来る人であったり、同じ地域に住んでいてもなかなか関心のない方を、そのコアの強い結びつきにどう顔を向けてもらうのかというか、弱いつながりをつくり出すのかというのが、こういうイベントを通しながらやっていかないといけないのかとは思いますが。具体的な事業というか、アイデアのご提案ではないかもしれませんが、考え方として、今のお話は参考になるのかと思いましたが。</p> <p>わざわざ遠くから来るのではなく、近くの人が集まれることの大事さ。それはそれで大事ですし、ここでも議論になっている、外から人を呼び寄せるといっても一方を考えていかないといけないので、そこは分けて考えるべきなのか、それが一緒になればいいのでしょうかけれども、焦点が二重、三重になると、なかなか目的が達成されないこともあるのかもしれません。</p>
岡田会長	<p>ものすごくいいヒントをいただいたのかと思うのですが、我々の研究の中でコミュニティ、地域をつくるというときに、強いつながり、コアをつくる部分と、外側の弱いつながりをつくる部分と、2つに分けて考えるのです。今のお話というのは、多分、中のコアの強いつながりをつくるところで、そこに利益であるとかではなくて、人が顔見知りというか、もともと住んでいる地域ですから顔見知りなのでしょうけれども、そのつながりを強化していくということが一番の優先順位に置いて、お祭りなど人が集まれるイベントをすることで地域の強化というものは成り立つのだろうとは思いますが。それプラス、外側というか、外から来る人であったり、同じ地域に住んでいてもなかなか関心のない方を、そのコアの強い結びつきにどう顔を向けてもらうのかというか、弱いつながりをつくり出すのかというのが、こういうイベントを通しながらやっていかないといけないのかとは思いますが。具体的な事業というか、アイデアのご提案ではないかもしれませんが、考え方として、今のお話は参考になるのかと思いましたが。</p>
貴志委員	<p>規模の問題で非常に難しいと思うのは、実は、私が住んでいるマンションで夏祭りをやっていたのですけれども、だんだん大きくなって行って、大きくなっていくのだけれども、旗振りをやったり祭りを実</p>

	<p>際に担うメンバーは固定化して、声を掛けてもなかなか集まらない。ただ、お客さんはどんどん集まってくるということで、とうとう維持できなくなってしまったのです。そこをどういうふうにやっていくか。規模が大きくなって、もうマンションの人以外でも、校区どころか、こんなに公園に人が集まりきれるかと思うくらい集まってくるので、お祭りをしたいという要望はある。このケースは、もう維持できないということでやめてしまったのですけれども、そのところで誰かがうまいこと旗を振れば続けられたのか、もっと大きなイベントになったのかとも思うのですけれども、そのあたりが難しいのかと。</p> <p>知っているところでは、錦西校区がイオンの広場を借りて祭りをされるのですけれども、それもリーダーシップを持った方が動いていらっしゃるんで、後を引き継ぐのは大変だろうと思うところがあります。そのあたりもうまいことつながれば、場所もいいので、もしかするとすごくいいイベントとして活用できるのではないかなと。これは、お役所方にもお願いしたいと思ったりします。</p>
大黒課長	<p>先ほど奥野委員から市外に働きに出ていて、なかなか堺を知る機会がないというお話がありまして、ちょうど来週の土日から堺区を中心とした秋の文化財公開、これは隈元委員が副会長をされていますコンベンション協会で作っていただいているパンフレットなのですけれども、審議の参考になればと思ってお配りさせていただきます。</p>
貴志委員	<p>さっき奥野委員が、図書館にいろいろ立派な本とかもあるけれども、なかなかそこへ行けないと、調べものをするにはとてもいいところなのにと。確かに図書館はそうなのですけれども、堺市内の図書館は、なぜか、少しアクセスの悪い立地のところが多くて。</p> <p>川上さんの観光協会や観光案内所って結構、駅前のところにあたりするので、お手軽にはそこを充実させるというのもひとつかと思ったりしています。</p> <p>前、奈良に行ったときには、奈良の観光協会はミニ博物館みたいな感じで、年表などたくさん置いてあって、ここで半日ぐらい過ごせそうなおところがあったので、図書館まで行けなくても入門堺みたいな感じができるのではないかと思います。</p>
岡田会長	<p>今、お手元にお配りいただいた秋季文化財公開の案内について、隈元委員からご説明や、強みみたいなものをぜひ教えていただきたい。</p>

<p>隈元委員</p>	<p>春と秋に、堺の文化財特別公開ということで、今回、松壽さんのところ福成寺にもご協力をいただいています。このときにしか見られない、今春でしたら熊野小学校の明治天皇の玉座を出ささせていただいたりとか、方違神社も期間限定でお手伝いさせていただいたりとか、いろいろとうちのメンバーが走り回って、この期間だけ出せるようなものを出しております。今回特にPRしているのは、伸庵で茶懐石、本来は茶室条例があってなかなか中で食事できないですけども、お茶をたしなみながら食事をして、庭園を見るという催しを初めて行います。</p> <p>皆様よければ、ぜひともご参加いただきたいです。</p> <p>それと、もうひとつは、川上副会長のところにもお世話になっています。ツアーの中では観光ボランティアさんにも頑張ってもらいますし、今回は、無料のループバスやレンタサイクルなど、通常とは違う移動もできるようになっておりますので、ぜひ多くの方に、お越しいただけたらと思っております。</p>
<p>岡田会長</p>	<p>今のお話の中で、やっぱり移動をしていただくためのレンタサイクルであるとか、そういうことを意識したシステム、仕組みを取り入れたりとか。こういうふうに見てわかるというか、外から来た人が一目で堺の資源がわかるということも、ひとつ大事になるかもしれません。</p>
<p>貴志委員</p>	<p>このパンフレットってどこかに置いていて、皆さんが持っていけるようになったりしているのですか。</p>
<p>大黒課長</p>	<p>堺区や、観光企画課、市政情報コーナーでも配架しています。</p>
<p>貴志委員</p>	<p>駅に置いてあったりは、ないのですね。</p>
<p>隈元委員</p>	<p>それぞれの駅の案内所にはすべて、あと、コンベンション協会の案内所には置かせていただいています。</p>
<p>大黒課長</p>	<p>移動に関連してご案内いたします。お手元にお配りしている広報の堺区2面にございます。</p> <p>ベロ（自転車）タクシーが堺を走るということで、昨年度、自転車まちづくり部と連携して、環濠エリアをベロタクシー1台で、そのときは無料で社会実験をさせていただいたのでですけども、今回は2台運行いたします。前回のアンケートを踏まえて、今回は1乗車500円、</p>

<p>岡田会長</p>	<p>ワンコインということで、限定10日間ですが、クリスマスイブまでの間に土日を中心に走ります。</p> <p>移動というところでも、こういう課題が何点か出てきましたけれども、それを堺区というか、一応、堺市の強みである自転車と結びつけて外に広報していくところがいいこととか、こういうことを積み重ねていくことが必要なかとは思いますが。</p>
<p>隈元委員</p>	<p>移動関係で、もうひとつだけ。今、市外から来てバスに乗車する際、乗り方がわからないという声が多いので、堺駅と堺東駅の案内所に地図を設けています。堺駅と堺東駅をデフォルメしまして、何番乗り場には、乗るところに行けますという地図と、右側に、例えば仁徳天皇陵だったら、堺駅だったら何番ですと。そこを見ていくと、こういうところに行けますという、わかりやすいA3の表裏で、両駅のバス乗り場の地図を堺観光コンベンション協会で作らせていただいております。</p> <p>私自身もバスはあまり乗っていなかったのですが、どれに乗ったらどこに行けるのかというのが不安だったのですけれども、大変わかりやすい地図ですので、またご利用いただけたらと思います。</p>
<p>岡田会長</p>	<p>僕も海外に出張で行くことが多く、バスを使うことも多いのですが、最初に手に入れるのがバスの路線図というか、言葉は英語だったらわかるのですが、それ以外であると確かにわからなくて。きれいに路線が色分けされていたり、目的地がきちんとわかるようになっていると、それだけ観光というか、その土地での動き方というのが変わってくるので、そういう取り組みは大事なかと思えます。</p> <p>続きまして、小池委員にアイデアをいただけたらと思います。</p>
<p>小池委員</p>	<p>あらためて、堺は魅力があるのだなと、先ほどからずっと思っていました。海外の人と交流していても、大阪といってもあまりピンとこなくても、茶の湯で堺と言われたり、シマノと言われたりすることも結構あって、そういうのもあらためて思い出したりしました。</p> <p>担い手なのですけれども、地域力と働きやすさと郷土愛というところで、おそらく、地域力は住む場所をちょっとよくしたいという思いとか、働く場所は働く環境を少しよくしたい、郷土愛も自分のまちをちょっと知ってもらいたいという、そういうまちで暮らす人たちが担</p>

岡田会長	<p>い手になるといいのだろうと思います。さっき奥野委員がおっしゃっていた、働きに行き寝に帰るだけの人というのは難しいかもしれないんですが、堺の中で暮らしている人は多分、自分なりの堺の魅力と知っていて、そういうのをちょっとよくしたいと思っている方が担い手になる事業ができればいいのではないかと、今日の資料を見て思いました。</p> <p>例えば、今、子ども観光ガイドをされていますけれども、それ以外にも、まちに暮らしている人が案内役になって、まち歩きとか散歩とか、そういうものをしてもらえたら、その人しか知らないまちの魅力を教えてもらえたりして。そうすると、まちの方が担い手になって、堺らしい魅力、まちに暮らすことを大切にするような魅力がわかって、堺らしさが醸成されるのではないかと思います。</p> <p>立派な観光コースでなくても、ちょっとその人が詳しいことを教えてもらう、一人一人がまちの案内人になるみたいなこととか、そういうことができればいいのかなと、またそれができる資源が堺には豊富にあると思っています。</p> <p>今、お話の中でも出てきましたけれども、堺に住んでいて、そこで働いている方というのが、いろいろ考えてもらえるのではないかと。皆さんのお話に共通しているところで、先ほどもお話ししましたがけれども、強いつながりといいますか、そのリーダーになれるというのは、住んでいて働いていてという人が問題意識も、課題点も理解というか、どこか体感、経験しながら、何かもやもやしたものを抱えているかもしれませんけれども、何かきっかけを与えれば、もしかするとお話に出てきているようなリーダーというか、引っ張っていく人というか、担い手になり得る候補者になるのかと思います。</p> <p>奥野委員が確かにおっしゃっているような、例えば地域の中には関心のない方もいらっしゃると思うのですが、その方でもきつと弱いつながりの一員として何かできること、接点ですよね。なかなか日常の生活の中で地域との接点というのは、時間的にもつくりにくい状況ではあると思うのですが、それぞれの接点はあると思うので。場所なのか、時間なのか、関心なのか、その中で自分の関われる部分というものを、ご自身というか、住民の方がそれぞれ気づけば、イベントというか、それが民間なのか役所なのか、さまざまだと思いますけれども、いろいろなお膳立てをしていく中で住民の方が、接点が見つけられるようなことができれば、地域力というか、</p>
------	---

	<p>人とのつながりはつくられていくのかと思いますので。</p> <p>そのあたりの行政の役割というのは、これからお膳立てというか、環境整備というところに、また力を注いでもらわないといけないのかと思います。</p> <p>これまでの議論を踏まえて、何か堺区の中でできる事業といいますか、アイデアでもいいですし、考え方もいいかとは思うのですが、何かお話があればお願いしたいと思います。</p>
北野委員	<p>テーマに沿っているかどうかわかりませんが、さっきバスの路線の話が出たのですけれども、私はよくいろいろな、大阪とか京都とかのギャラリーに、知らないところに訪ねて行くことが多いのですけれども、そのときいつも携えているのが、この大判のハンカチです。東京版と京都版もあるのですけれども、大阪の路線が全部これに載っているのです。すごく便利で、どこかのギャラリーに行くときも、美術館に行くときも、どこからどの路線に乗って、どう行ったらいいかが一目でわかります。</p> <p>地図って、すぐ破けてきてしまうのです、大きなものを広げると。それで、自分の携帯で見ると部分的にしか見えなくて、全体の把握ができにくいので、これを堺でつくっていただけないかしら、バス路線と一緒にして。</p>
奥野委員	<p>今、思い出したのですけれども、この前、東京に行って神楽坂でお土産、プレゼントになるものを探していたところ、織物屋、テキスタイルのお店がありました。いろいろな布とか、肩にかけるようなもの、ストールなどを売っているのですけれども、その中にある、手拭いが半分ぐらい堺産なのです。「にじゆら」というブランドで、店の人に聞いたら、堺はすごく手拭いでは有名でという話をされて。</p>
貴志委員	<p>伝統産業会館には、手拭いがいっぱい売っている。</p>
奥野委員	<p>だから、これなんてまさに手拭いでつくったら、すごく便利ではないかと。案外、関東の人は大阪市よりも堺にロマンティックな幻想を持っているのではないかと思ったりします。</p>
北野委員	<p>歩きながら街角でこれを見ることもあるのですけれども、もう3人ぐらいの人に「それ、どこで売っていますか。いいですね」と、あと</p>

	<p>電車の中で広げていても、よく声をかけられます。需要はあるのではないのでしょうか。</p>
貴志委員	<p>じゃあ、手拭いでこれをつくって。</p>
北野委員	<p>何かひとつ、区民評議会として形あるものを残すようなことができたらと思います。</p> <p>それから、まちづくりに関して最近ずっと思っていることがあります。私のところのような小さなギャラリーでも来ることをとても楽しみにして、世間話をしに来られる方とか、悩み相談というわけではないのですけれども、すこし愚痴をこぼす感じでいらっしゃる方とか。その方にとっては、ここがひとつの居場所になっているかと思うことが最近とみに感じるので、まちのどこかに、そういう軽いお話ができるような居場所、その方にとっての居場所がたくさんあればいいと思います。ずっと言われているまちづくりのひとつのテーマではないかと思います。</p>
岡田会長	<p>地域の方が地域に関心を持つ、それは余裕がないとできないことなのかとも思うのですけれども、住み続ける中でいろいろ相談をしたり、話をしたりというのは人間誰しも思うところで。そこで、具体的な事業ではないのでしょうかけれども、人々が幸せにというか、安心して暮らせるという部分というのがやっぱり必要なのです。</p> <p>なかなか、そういうのが今は四角四面で地域がつくられていたり、無駄を省いていく中で、そういうところが省かれていってしまっている。改めて、そういうところを評価していくことが大事な視点なのでしょう。このハンカチをつくりますか、堺区で。</p>
貴志委員	<p>今、思い出したのですけれども、家に、どこかでもらった日本手拭いで、地図ではなくて、本当にイラスト風に、観光ガイドみたいになっているのがあって。それを見ても全然、地図ではないので行けないのですけれども、何があるかがわかるのがあって、それを細かくすれば、こんな形かと思うので。</p> <p>ほぼ、これをそのまま使ってもいいぐらいかと。</p>
奥野委員	<p>プリントでやれば、安くつくのです。</p>

貴志委員	多分。いいと思います。
岡田会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、引き続いて、松壽委員、お願いしてよろしいですか。</p>
松壽委員	<p>私は、ママチャリレースの話は前回にさせてもらったのですが、基本的に自身の考え方としては、堺というまちが後押ししてくれるような企画でないと絶対に無理だと考えているのです。</p> <p>私、月に1回は必ず山之口商店街のところでお話を伺っていて、お店をやっている方のお話を聞くと、結構80代とか70代の方が大半で、もうシャッターをあけるだけでも限界と言われているのです。シャッターをあけるのが限界で、観光客の方も来られるのですが、露店というか、お店のものが盗られたりもするみたいな話もされていて、それを追いかける力もないと言われていて。</p> <p>新しいことをするというのが結構難しいとか、厳しいところがあって、まちづくりを今頑張ってくれている人がいるのですという話も聞くのですが、その方はお幾つぐらいなのかと聞くと、今60代で若手ですと言われる。若手といっても60代が担い手になってきているというのが、やっぱり20代、30代とかも担い手になっていかなくてはいけないとも思っています。</p> <p>山之口商店街は、みんなも感じているとおりシャッター通りになっていて、そのシャッター通りでにぎわいを取り戻そう、頑張ろうという企画は、私は結構厳しいと思っているのです。というのも、その場合、頑張らなければいけないので、やっぱり続いていかないという部分があると思うのです。</p> <p>私が、そういうシャッター通りでやっている企画で、うまいなと思っていたのが、岐阜県にある柳ヶ瀬というところで2012年ごろだったと思うのですが、シャッター通りの中の閉まった劇場でお化け屋敷を始めたのです。お化け屋敷を始めて、シャッター通りになる商店街にもお化けが出てきて、寂れた感じをそのまま生かしてお化け屋敷と相乗効果が出た。そこがプロモーションで、1カ月から2カ月ぐらいずっと続けていたのですが、たしか3万人とか来るような、すごく大盛況な企画になっていました。何でシャッター通りでお化け屋敷をやったのかというと、もともとそこに、口裂け女の伝説みたいなものがあったって、それを生かした企画だったのです。</p> <p>だから、その地元にあるような物語というのも加えつつ、何かし</p>

	<p>ら、そのシャッター通りだったらシャッター通りを、しかも、この場合は、シャッター通りをシャッターチャンスに変えたという企画だったのです。お化けと一緒に写真を撮ったりということをしていて。仕掛けをプロデュースしたのは、まちの人ではなくて、山口敏太郎さんというオカルトホラー作家の方なのですけれども、こういったプロの方が作家として入って、中の動線とか、あとは制作ですね。美術面とか、あとは人のスタッフの配置とか、そういったものも全部含めてされていたというところがあって。</p> <p>だから、そこのまちの人がするのではなくて、どなたかプロとか、プロの下に広告代理店が入っていたりとか、あとは広告代理店の下に企画制作会社とかが入っていたりしたというのが一番やりやすいというか、まちの人たちにも負担がないし、プロに頼むというのは、私は結構いいのかなと考えていたりします。</p>
岡田会長	<p>ひとつのアイデアですね。地域の人が地域の担い手になってつくり上げていく中で、いろいろ課題があって、アイデアを出すであるとか、実際の担い手、動き手が少ないとか、いろいろあろうかと思うのですけれども、今のお話だとアイデアのところプロが関わることで、相乗的に取り組みが推進されていくという事例だったのかと思います。それもお金がかかることなのかもしれませんし、全体の事業でそういうことが可能であれば、ひとつのやり方かとは思いますが。</p> <p>それでは、次に矢本委員、お話をいただいていますか。</p>
矢本委員	<p>先ほどから、その担い手がない、なり手がないという話がありますが、こういったことというのは、もう本当に10年以上前から、国もさんざん補助金を出して商店街の活性化だ、何だかんだと言ってさんざんイベントをさせて、今でもそういうところはたくさんありますけれども、こういうやり方というのはだめだということも検証済みだと思うのです。</p> <p>結局、意見としては先ほどあったみたいに地域で暮らす人が担い手になるのが一番いいと。商店街の人って、もちろん暮らしている人は事業をやっていて、ストライクなわけですから。当然、まちに思いも持っているわけで、人も呼びたいわけですから。思いを持ってやっていたけれども疲弊するばかり、事業にはつながらない、自分のところのまちにはお金は落ちない。イベントをやったら、イベントに人は来るけれども、結局、それでまちにお金が落ちない。イコール、どんどん疲れて</p>

いく。思いのある人は、それが3年や5年、10年は続くのでしょうかけれども出口が見えない、何も変わらないということの繰り返しを今まで、もう既にやってきていると思うのです。

なぜ、なり手がいないかという、結局そこは労働力の搾取でしかないと思うのです。初めは思いがあっても、だんだんそれが負担になってくる。だから、結局続けられないと私は思うのです。

ではどうしたらいいのかといったときに、当然やり手も、やはりメリットがないと継続はできないわけです。よく言うみたいに若い人だったりとか、20代、30代だったりという人は無理ですよ。収入も少ないし、今どき晩婚で、もっと30代とかにならないと結婚しないのかもしれないけれども、では、そこに子どもができた。それまで共稼ぎだったのが稼ぎ手が1人減る、でも、お金はどんどんかかっている。そこにまちの担い手になってくださいといっても成り立ちますか。なかなか成り立たないと思うのです。

私が考えるひとつの可能性としては、岡田会長なんかは大学の先生ですけれども、やっぱり大学生の力を使う。当然、ただ単に労力を搾取するというわけではなくて、インターン的な形で学びの場として、フィールドワークとして働いていくと。そこで、学生にも実際の現場を知ってもらい、そこで学生にとってはプラスになると。まちにとっても、それによって活性化してプラスになるようなウィン・ウィンの関係を全てつくっていかないと、なかなか難しいと思います。

他にも、例えば高齢者だったり、今どき、もう人生90年、100年と言われていまして、老後をどうやって生きていこうという人は山ほどいます。お金がなくて生きていこうという人は山ほどいます。では、こんな人にやれって、無理なのです。比較的裕福な方で生きがいを求めている人だったりとか、そういうことに対して、まちと触れ合ったり、地域に対して何か貢献して、それが生きがいにつながったりする方であれば、そういう可能性はあるのではないかと思います。

そういうところをうまくこと事業につなげていかないと、なかなか、やれやれでは難しいのではないかと。それか、もう本当にひとつの事業をつくっていくのであれば、先ほどの北浜のこともそうなのですからけれども、僕らもいろいろなことをやっている中で、やりたい人がいるかなのです。やりたい人がいれば当然、続くのです。でも、上からこんなことをやったらいいではないかでは、それでチャレンジして生まれてくることもあるのかもしれませんが、なかなか生まれてこないです。行政ができることといえば、そこは規制緩和だと思うので。

<p>岡田会長</p>	<p>例えば、私どもでやらせてもらっているのであれば堺区に協力していただいて、今、例えば大小路筋のところの一部を警察と協議して借りて、そこに対してマーケットを展開している。そういうことであれば、今までお金を生まなかったところにお金が生めるわけなのです。そういうことによって、北浜もああいう、もともとは使われていなかったところに対してテラスをつくって、集客のソースであったりとか、お金を生むソースにしていくことによって実用性が成り立つという、本当に収益性が担保できるような、事業化できるようなことを本気で考えていかないと、誰か担い手、こんな人が担い手になるのではないかとかでは、なかなか現実問題としては今までと同じ失敗の繰り返しになるのではないかなと思います。</p> <p>ここでいろいろな事例として挙がっているような事業がありますけれども、まちのデザインC a f eだったり、サカイ・サンセット・ガーデンというのは、一体幾らのお金を使って、一体幾らのボランティアを入れて、市の職員も手伝って成り立っているかです。それで一体何人呼んで、幾らのお金が落ちているかです。それは、果たして堺自身のお金として落ちているのかどうかというのを、しっかりと検証した上で考えるべきだと思います。</p> <p>いろいろ経験からご意見をいただきましたけれども、コアになるご意見というのは継続できる仕組みをいかにデザインしていくかということに尽きるのかと。そこにインセンティブというか、やり続けることのメリットをいかにうまくつくり上げて、参加いただける人に集まっていたかということだと思います。</p> <p>大学生は、今、フィールドワークという形で、地域との連携の中で社会に出て行って、外に出て行って授業をしているのですけれども、その中で地域の課題を解決していく事業というのは、今はP B Lというのですけれども、課題解決型の授業というのが今、一方的な講義型の授業ではないものが、デザインされています。今は僕らも一生懸命、そういう地域の課題を探し回っています。関西大学は本部が吹田なので、そちらで地域の、大学生も昼間は吹田・千里山の住民であり市民であるので、そこでの課題をいかに解決していくかということで、事業が展開されています。</p> <p>堺キャンパスでも来年度から、そういうことをやろうということで、安田先生がデザインされて、事業が展開されているということを知っています。そういうところで、区民評議会のアイデア、事業と連携で</p>
-------------	--

<p>湯川委員</p>	<p>きるのかと思います。</p> <p>それでは、引き続いて、湯川委員、お願いしてよろしいでしょうか。</p> <p>私も13年前ぐらいにパンゲアというコミュニティカフェを始めたのですけれども、思い起こせばすごく大変でした。13年続けることとか。店を引き継いだので、前にやっていた方が3年半、17年ぐらい店としてはやっているのですけれども、なかなか自分で事業をやっていくというのは本当に大変だと思っていて、さらに若い世代を地域の担い手というのはすごく理想ではあるのですけれども、その世代はなかなか支援的な活動というのは、時間的にもお金的にも余裕がないというのが、本当正直なところだと思っています。やっぱり気になることは気になるけれども、でも、そこにまで時間もさけない。</p> <p>今、実はもうひとつコミュニティカフェを立ち上げようと動いているのですけれども、パンゲアのと看とは自分の中で全然環境が違って、結婚もして子どももできて。当時は結婚もせず、子どももいなかったもので、本当に24時間それに注げられたわけですけれども、今はもう最大でも13時間ぐらい、子どもがいると8時間の中でどうやりくりするかという時間的制限がある中で、でも、地域のことは気になるけれども何ともできないという世代が、私たちの世代は多いのではないかなと思います。</p> <p>今の世代ですごく、地域の活動で頑張られている方といえば70代の方が多いかというのが私の印象としてあって、若い世代を地域の担い手という。その若い世代っていうのは、やっぱり60代ぐらいなのかというのがあります。そのぐらいの方たちに、いかにうまく引き継いでいくかというか、そうしていただいて私たちは地域で働く側というか、お金を生み出す側に集中していくというのがいいのかと思っています。それでだんだん歳をとっていけば地域の中での役割とか、自分の立ち位置が変わっていくかと思うので、そういう循環が本当にうまく引き継いでいけたらいいと私自身は感じています。</p> <p>なので、今、60代で、次にやってくる50代をどう地域に興味を持ってもらうかということに注いだほうが、防災とか、本当に地域の安全・安心を見守っていくのはその世代に引き継いでもらって、世代ごとにそういう役割がある文化みたいなものが堺区の中に根づけば、いい循環が起こっていくのではないかと思います。</p> <p>また、子どもに郷土愛の醸成ということで、堺区のこととか、堺市の歴史とか、そういうのを知ってもらうのもひとつなのですが、私が</p>
-------------	--

<p>岡田会長</p>	<p>必要だと思うのは子どもたちが将来いかに稼げるかという、お金の教育です。ここで話しているような、事業を起こしていくにしてもお金からは逃げられないところがあるので、そういう地域の思いやりを持つ子も大事なのですけれども、そこで事業を起こしていった稼いでいくお金という概念をしっかり持ってもらうような教育も、一方では必要かというのが思っていることです。</p> <p>60代、若い方若くないかはわかりませんが、新たな役割というか、担い手として特定の世代といいますか、世代の方に担っていただいて、若い方というか生産労働人口のところの方は、そこに集中をしていただく。そこで、それぞれの世代に役割を担っていただいて、それが循環していけば新しい世代間のつながりができて、コミュニケーションもできて、新たな取り組みというのが考えられるのではないかとこのところのお話だったかと思います。</p> <p>今日、関西大学で防災デーというのがありまして、もちろん堺市、堺区にもご協力をいただいているのですが、日本防災士会の方がいっぱい来ていたのですけれども、ほぼ70代の方です。それは、すごい役割を持って自分で、意識が高いとか感心というか、なかなか自分の生活時間を使って、大学や地域のために防災意識を高めるために活動をするというのは、僕にはできないわけです。今の僕には時間もないですし、そういう知識も当然ないです。そういう勉強する機会もないのですけれども、特定の世代になったときに関心を持って、お話がありましたけれども、自分に役割があると気づければ、ああいう活動もできるようになるのかと、とても関心を持って見ていました。それをいろいろなところに、いろいろな役割が生まれていけば、確かに地域力の強化ということにもつながるのかと思いました。</p> <p>防災というのは、本当に人間が安心して暮らしていくための基本的な環境整備なので、それを行政だけで担えるかというのと、なかなか難しい。ネットワークの網の目の網だけしか、役割としては持っていただけないかもしれませんが、その穴を埋めていくのはそこに住んでいる住民というか、いろんな世代、役割の人なのかとは思いますが、そういう仕組みづくりというのは、昔も言われていますけれども、今後、さらに重要になってくるのかとは思いますが。</p> <p>それでは、最後に川上副会長、ご意見をいただけますか。</p>
-------------	--

川上副会長

たくさん意見を聞かせていただきまして、ありがとうございます。ちょっと断片的になるところと私のアイデアと、両方を話します。まず、シビックプライドの醸成の成功例は岸和田のだんじりだと思います。江戸時代の初めから徳川のお殿様が、「あんな危ない祭り、俺はよう面倒見ん」といって、市民だけでやり出しました。いまだに行政の関与より、市民の力によって運営されています。そして、祭りの組織そのものが防災の組織にもなっています。祭りといったら学校を休んでもいい、仕事でも祭礼につき1週間休みますと言って休む方が多いくらいです。だんじり祭りは、岸和田の人にとって、それぐらい、シビックプライドの醸成には役に立っている。行政が直接、手をかけなくて、あれだけの成功例はなかなかないと思います。阿波踊りだって、行政がちょっと手を抜くと今回、赤字を出しています。あれだけの歴史のお祭りで赤字が出る、普通はそんなものだと思います。

それで、先ほど図書館の件を言っていました。実は、図書館の基本構想というのは、来年の3月目途で今、堺でいろいろなことを考えてやっております。先月、私、1時間半ぐらい、図書館についてのヒアリングを受けまして、言いたいことをいっぱい言いました。ジョルノの中に図書館を持ってきて、その中にうちの観光案内所をつくらしたらどうか。これは一例です。中味についてもたくさん意見を出しました。意見聴取しているのは図書館ではなくて、東京から来た図書館の専門の人なのです。それを全部冊子にして堺市に渡すという仕事の人でした。どう変わっていくのか。今、堺市の中央図書館をはじめとして、それぞれの図書館が変わらないといけないという意識は持っているということだけはわかりましたので、これから変わっていくのではないかと思います。

先ほどからもうひとつあったのは、目標が高過ぎてと言っていると、これ何も進まないです。進ませようと思ったら、どこかから手をかけないと。あまり高い目標ではなくて、その手前ぐらいの目標にして何かからやらないと、これ何も進まないのではないかと。そういうプランを出さないと、ここでは結局、話ただけで終わってしまうという気がします。

まちのことを知らないという話がよくありました。それは、新しく来た人は知らないだろうし、かといって子どものときからずっと堺にいる人がどれだけ知っているか。大して知りません。私も高校まで堺におりましたが、何の興味もなかったというのは前も言ったと思います。これは、子どものときに知る機会がないのです。誰も教えてくれ

ない。堺のことなんて試験にも出ないし、どうでもよかったのです。だから、全く知らないという表現よりも、興味がなかったのです。

ところが、今は違います。先ほど、奥野委員が言われてた通り、東京の人って結構、堺に興味があるのです。東京含め関東圏の方。今日はたまたま私、朝の10時からさっきの5時まで一日中、堺市博物館でVRのガイドをしていました。一番多かったのが東京の人、それから埼玉、インドネシア、スイス、静岡、札幌の人が3人も来ました。堺の人は1日で1人だけ来ました。毎回それぐらいです。それは堺の人が少ないということを言いたいのではなくて、関東の人はこの堺のまちに興味があるという意味なのです。特に、堺は徳川のまちですから、家康が堺で死んだって？何よそれ。と聞きに来られますから。堺の案内というのは、古代、戦国時代、明治、大正、昭和、平成、どこからでも話ができるので、行ったり来たりしながら、その間に有名な人がたくさん絡んでるので、その人の話をしていたら誰でも興味を抱けます。そのようにアピールをしてもらったら、堺というまちはもっと宣伝できるのではないかと思います。

そこで、茶の湯条例、これをさっき読んでいたのです。この中の教育ということに、次世代を担う子どもたちが思いやりの心を持てるまち、茶の湯条例でもちゃんとこのことを言っております。今回、大仙小学校の3年生に、11月の8日にガイドをしていただきますが、今のところリハーサルまで終わりました。うまい子はすごくうまいし、6年生と比べても、私はこっちのほうが良いと思うような子どももおります。でも、それはそれとして、そうではなくて堺のことを、例えば月に1回か2回ずつ、それぞれのコースをつくって、2時間ぐらいのコースを、堺区の小中学校全部に広報して集まった人たちを対象に、安価で、半年ぐらいかけて、堺学をずっとやっていけばいいと思います。そういうプランはいかがでしょうか。当協会には、そういう専門家もいますので、カリキュラムを組んでくれました。すぐにさっとできたのですが、本当にうちだけで全部やるのか、受付から何から全部やっていくのかということになると、人手が足りません。観光ボランティア協会、260人いても足りないのです。この秋季文化財特別公開でも1日100人出していますから。

だから、もちろんそんなのではできないので、どなたかが社長になって進めてくれるとか、あるいは、堺区や、教育委員会が協力してくれるとかが必要です。実際にやるのは我々ができますので、少しずつでもできることから、次世代を担う子どもたちのシビックプライド醸

	<p>成の部分に合致した事業ができるのではないかと考えております。</p> <p>皆さんの多くのご意見をお聞かせいただき、3番目のシビックプライドの醸成というところに集約してお話させていただきました。プラン自身は冊子がもうできてますので、いつでもお見せすることが出来ます。</p>
岡田会長	<p>どうも皆さん、ありがとうございました。</p> <p>本日いただきましたご意見をまた参考にして、答申案に反映させていただけたらと考えております。</p>
間宮委員	<p>最後に、PRをさせてもらっていいですか。</p> <p>事業案ということだったので、月蔵寺日月園コンサートをご紹介します。この秋季文化財公開でも公開される月蔵寺という古いお寺があるのですけれども、合祀墓で新しい形のお墓をつくりました。なかなか墓を維持していけない方が、墓じまいということで宗派関わらずここへ納骨すると永代供養ができます。お寺もどんどん少子化で、経済的にも苦しくなっている。次の世代に伝えていくために何かしないといけないということで、僕が設計をさせていただいて、大きなシェルターを地下に埋めて、そこに納骨をしていくのですけれども、多分これは、集客といたら祖語があるけれど、あると思うのです。</p> <p>これって、堺にお寺がすごくたくさんあって、時代的には少子化で、今はお墓にはいろいろな問題があがってくるので、すごく話題になる部分もあると思うのです。そういったものが、本当にしっかりした歴史あるお寺が新しい事業としていくことによって人が集まる。もちろん月蔵寺の文化財もあるのですけれども、今回は、水が循環することによって巡葬というやり方を考えているのですけれども、その水をとめると広場になるのです。そこで、コンサートが行われます。</p> <p>本当に堺の資源を使った新しい事業なので、こういったこともすごくやる人は自分の持っている資源を、やっぱり堺の資源を生かしながら活用しているので、ぜひ、よかったら1回このコンサートに行ってください、ある意味では事業としては参考になると思います。</p>
大黒課長	<p>最後、資料3のアウトライン案は時間があればということなので、この項目でちょっと整理をして、また次の区民評議会までに案を皆さんにお送りさせていただくということでお願いします。</p>

岡田会長	<p>それでは、今ご説明いただいたように、資料3を見ていただくと、答申案のアウトライン、目次があるかと思います。またお気づきの点がございましたら、事務局にご連絡というか、メールをいただいてもいいかと思いますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>では、最後に、副会長からご案内ということで、よろしくお願ひします。</p>
川上副会長	<p>一昨日、阪急グランドビルで堺文化財特別公開の歩き方というものを90分間話してきました。阪急は必ずアンケートをとるのですが、それによると100%の人が、これに行きますと答えていますので、ここにおられる堺の方は行ってください。</p>
間宮委員	<p>何人来られていたのですか。</p>
川上副会長	<p>この間は少なかった。45人ぐらい。平日でしたので少なかったのですけれども、ここに行きたいという声で、月蔵寺と書いた人がありました。だから、幾らかの効果はあるのではないかと思っております。</p>
岡田会長	<p>長時間にわたってご審議いただき、ありがとうございました。それでは、事務局から最後にスケジュール説明をお願いしていいですか。</p>
事務局 (川瀬主査)	<p>モデル事業、次回会議の日程を説明。</p>
	<p><b>3. 第5回堺市堺区区民評議会 閉会</b></p>
岡田会長	<p>以上をもちまして、平成30年度第5回堺市堺区区民評議会を終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。</p>